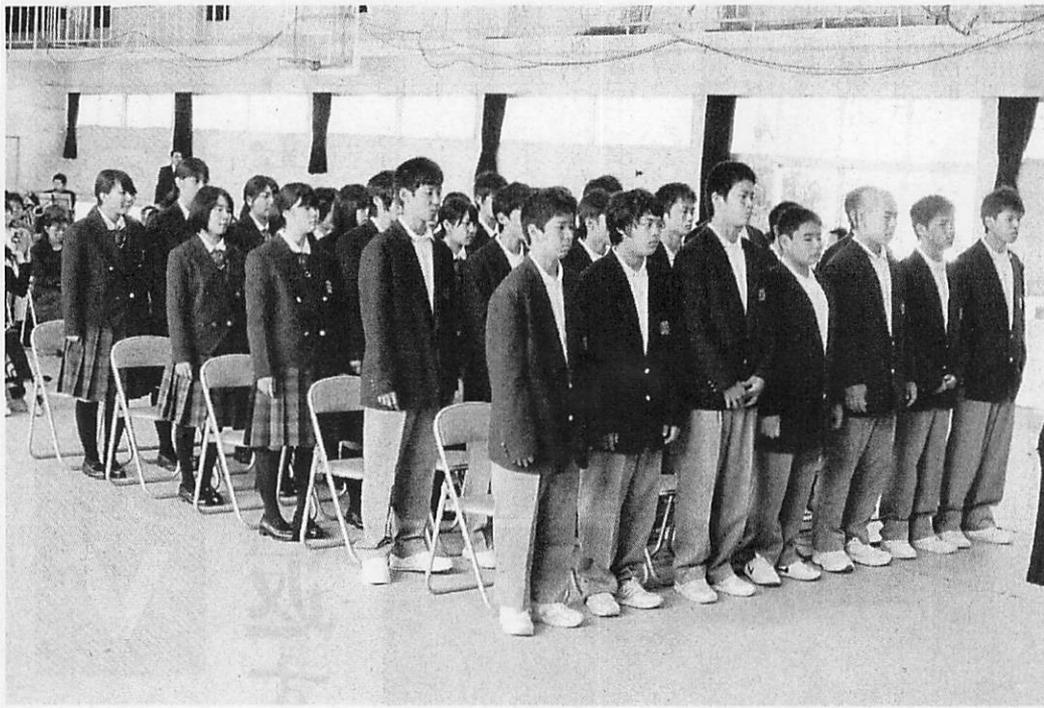


地域に根ざした 学 校 支 援

—古仁屋高入学式—

新入生35人、町全体で盛上げ

奄美群島の各高校で（佐久間健土校長）で9日、入学式があった。は今年度、普通科に35人（瀬戸内町の古仁屋高校）が入学。生徒数の減少と重なったが、在



古仁屋高校に入学した35人の新入生ら。多くの人に見守られて高校生活をスタートした

生らの歓迎を受けながら、希望に胸を膨らませて高校生活をスタートさせた。

入学式には町内唯一の高校に進学した新入生らを祝おうと、保護者をはじめ、房克臣町長など町内から多くの人が参加。吹奏楽部の演奏に迎えられた新入生を、盛大な拍手で歓迎した。

式では新入生一人一人の名前が呼ばれ、佐久間校長が入学を許可。阿木名中出身の勝田龍星君が新入生を代表し「規則に従い、学生としての本分を守ることを誓います」と宣誓した。

佐久間校長は「3年間が長い人生のわずかな時間だが、最も多感な生命力にあふれた時期でもある。古仁屋高校の生徒としての自信と誇りを持ち、これからの社会を生き抜くための力をつけてほしい」と式辞。

房町長は「色々な人と出会い、多くの経験をするだろう。古仁屋高校で良き友を持ち、やる気が心の底から湧き出るような3年間であってほしい。地域に根ざした学校づくり

に、行政も全力で取り組んでいきたい」とあいさつした。

新入生代表宣誓をした勝田君は「小さな頃から祖母と過ごしてきた。これからも祖母との時間を大切にしたいと地元の高校を選択した。高校では中学でもしていた柔道部に入り、県大会に出場した

い。これからの高校生活が楽しみ」と語った。今年度の新入生は35人のため、1学年1クラスとクラス数も減少。学校存続に危機感を募らせる同町では高校存続のため、町をあげて生徒数確保に向けた政策を実施している。今年度は古仁屋高校振興対策費（577万円）を確保し、「古仁屋高校ふるさと留学制度」や各種PR事業などを計画している。

入生ら

歓迎

受け

ながら

い。これからの高校生活が楽しみ」と語った。今年度の新入生は35人のため、1学年1クラスとクラス数も減少。学校存続に危機感を募らせる同町では高校存続のため、町をあげて生徒数確保に向けた政策を実施している。今年度は古仁屋高校振興対策費（577万円）を確保し、「古仁屋高校ふるさと留学制度」や各種PR事業などを計画している。